

お菓子発祥の地 海南にちなんだ和菓子作りイベントを開催 いわれとなる昔話の紹介や関連本の展示、和菓子と一緒に茶道体験も

初めての方や子どもにも気軽に本格的な体験を楽しんでもらい、海南市の歴史や日本文化に触れる機会を

図書館機能を中心とする複合施設「海南nobinos」（和歌山県海南市）は、海南がお菓子発祥の地と呼ばれることにちなんだ和菓子作り体験を、6月1日（土）、海南nobinos 2階多目的室2で開催します。お菓子発祥の地のいわれとなった昔話を子どもたちにもわかりやすく紹介し、和菓子やお菓子づくりなど関連する本や絵本を図書館から移動展示します。自分でつくった和菓子は、茶道の先生が入れたお茶と一緒に味わうことができます。初めて体験する方や子どもにも気軽に本格的な和菓子作りと茶道を楽しんでもらい、海南市の歴史や日本の文化に触れてもらいたいと考えています。

海南市や和菓子、お菓子作りにも関心を広げるきっかけに

海南には、お菓子の原型となる橘（みかんの元となった果物）が初めて植えられた橘本神社があります。古代日本神話が生まれた頃、タヂマモリという神様が、当時の天皇に不老不死の実を持ってきて欲しいと言われ、「ときじくのかぐのこのみ」がそうであるときとめ、その実を持ち帰ったと言われています。「ときじくのかぐのこのみ」は橘のことで、むかしの人はその橘をお菓子として食べていました。このお話に基づき、お菓子発祥の地 海南を広く市民や近隣の方に知ってもらいたい、また図書館らしく関連する本や絵本の移動展示を行い、和菓子やお菓子作りにも関心を広げてもらいたいと今回のイベントを企画しました。



講師：和歌山市の和菓子店「紫香庵」の店主須賀良知さん

和歌山の和菓子店主と茶道家が参加

はじめに、海南市観光協会が作成した、お菓子発祥のいわれの昔話を絵本にした「たちばなとお菓子のものがたり」を紹介します。和菓子作りは、和歌山市の和菓子店「紫香庵」の店主須賀良知さん自らが指導・サポートしてくれます。午前中に「絞り花」「ひまわり」「朝顔」、午後に「紫陽花」「うちわ」「びわ」のそれぞれ3種類の和菓子を作ります。手作り体験の後、表千家、高瀬久美子先生が、椅子に腰かけて行う点前、立礼（りゅうれい）でお茶を入れてくれ、自分で作った和菓子をお茶と一緒に味わうことができます。



参考

和菓子作り ～日本の文化に触れてみませんか～ 概要

日 時：2024年6月1日（土）

10：00 / 14：00 （90分）各30人

場 所：海南nobinos 2階 多目的室2

対 象：5歳から ＊小学生以下のお子様のみ参加はできません。保護者もご参加ください。

参加費：1人 1500円 （3個作れます） ＊材料費、体験料含む

応 募：5月1日9：00～5月25日21：00 海南 nobinosHP もしくは電話（073-483-8739）

内 容：和菓子作りと茶道体験

<和菓子作り>

10時開始の部に「絞り花」「ひまわり」「朝顔」、14時開始の部に「紫陽花」「うちわ」「びわ」のそれぞれ3種類の和菓子を作ります。

講師：「紫香庵」の店主須賀良知（すが・よしとも）さん

59歳ブラジル生まれ。大学を卒業した後22歳で帰国し、曾祖父が創業した「うすかわ饅頭」で知られる和歌山県串本町の和菓子店「儀平」で働き始め、40歳で独立。19年前、和歌山城が目に見える和歌山市七番丁でお店をオープンしました。（2年前に和歌山市北松江に店舗を移転しています。）もちもちとした食感の「紀州太鼓」や、葛で作った「くずアイス」、寒天を土台にして生菓子をトッピングした「和ケーキ」など、伝統的な商品だけでなく新しい和菓子の創作にも尽力されています。

<茶道>

和菓子作りの後、表千家、高瀬 久美子先生が、立礼（りゅうれい）でお茶を入れてくださいます。立礼とは、立礼卓（りゅうれいじょく）という、茶の湯で点茶盤と称するテーブルに風炉釜、水指を置き、椅子に腰かけて行なう点前のことです。

■「海南nobinos」施設概要

名称：海南nobinos （カインアン ノビノス）

＊「のんびりする」「のびのびできる巣」という

所在地：和歌山県海南市日方1525番地6

Access：JR海南駅より徒歩7分

開館時間：9：00～21：30

休館日：12月29日～1月3日

運営：指定管理者 TRC海南

海南nobinos 指定管理者TRC海南（担当：馬場 田中）

〒642-0002 和歌山県海南市日方1525-6

E-mail: trc_kainan@trc-sp.jp

構成団体：株式会社明日香（本社：東京都文京区 代表取締役 萩野吉裕）



（本社：東京都文京区 代表取締役社長 谷一文
TEL：073-483-8739 FAX：073-483-8738

HP <https://kainan-nobinos.jp/>

：大揚興業株式会社（本社：和歌山市新通2丁目 代表取締役社長 村田弘至）

施設内容：①図書館機能／蔵書冊数14万5995冊（うち絵本の冊数5万2696冊）＊2023年9月末時点 ②市民活動・生涯学習活動支援機能／ホール(最大254席)、多目的室×3、会議室×2、音楽練習室×1 ③子育て支援機能／和歌山県内の公共図書館では初の常設有料託児室、乳幼児用の遊び場、屋外広場に隣接する保護者待機室など ④カフェ／スターバックス コーヒー 海南nobinos店（館内は全て蓋つき飲み物の利用可） ⑤広場

■来館者数関西一 “賑わう図書館”

海南nobinosは、図書館機能を核としながらも、ホール・貸館、子育て支援機能を持ち、広場のほか、スターバックスコーヒーも出店しています。図書館は、手に取れる冊数としては日本一となる5万冊の絵本を開架し、児童書、一般書、マンガなど親しみやすい図書を中心に揃えています。ぶつかっても怪我をしないクッション性の高い書架や、押し入れのような閲覧席、寝転んで本を読める読書の森や遊具など、遊びながら本に触れ、好奇心を高める工夫を随所に施しています。2020年6月1日の開館以来、図書館に来るきっかけになるようなイベントも多数開催し、年間来館者数は59.7万人と、人口10万人規模の自治体の公共図書館と比較して関西一となります（日本図書館協会「日本の図書館 統計と名簿2022」より）。



寝転んで本を読める読書の森